

加ドル、BOC の声明に注目

- ◆ポンド、年内利上げをめぐり神経質な動きか
- ◆加ドル、引き続き原油高が支え
- ◆加ドル、カナダ中銀（BOC）の声明に注目

予想レンジ

ポンド円 155.00-160.00 円

加ドル円 90.50-94.50 円

10月25日週の展望

ポンドはイングランド銀行（BOE）による年内利上げをめぐり、神経質な動きが続くか。市場ではベイリーBOE 総裁の「インフレ圧力に対して行動する必要が生じる」との発言を受けて、年内利上げ期待が急速に高まっている。11月と12月の会合での利上げを予想し、短期金融市場では12月会合までに0.4%の利上げを織り込み、2022年末には政策金利を1.25%まで切り上げると見込まれている。ただ、金融政策委員会（MPC）メンバーのマン委員やテンレイロ委員は利上げを急がない姿勢を示すなど、「インフレ高は一時的」との見方を維持する委員も少なくない。市場の急速な利上げ織り込みには行き過ぎ感も台頭している状況だ。来週は経済指標の発表は予定されておらず、MPCメンバーの発言などに注目している。

また、エネルギー価格の急騰などを背景に「インフレ高は一時的ではない」可能性が高まっている一方で、欧州連合（EU）離脱やコロナ禍の影響で供給制約が深刻化しており、英経済の先行きに対する悲観的な見方も強まっている。最近、英国内でコロナの新規感染者数が7月半ば以来の大幅な増加を記録するなど、コロナ感染の再拡大でジョンソン英首相は「厳しい冬になる」と警戒感を示した。医療制度への負荷が過剰になった場合はマスク着用義務や在宅勤務の勧告といった対応策の復活も考えられるが、クワーテング民間企業相は、ロックダウン（都市封鎖）措置の再導入はないと声明した。

加ドルは引き続き上昇基調を維持している原油相場が支えとなりそうだ。冬季を控えた世界的なエネルギー需給逼迫を背景に原油高が続いている。主要国がコロナのパンデミック（世界的大流行）から回復しつつある中、アジアや欧州などで天然ガス・石炭不足が発電用の石油製品需要を押し上げていることも原油高を後押ししている。イラクのアブドルジャバル石油相は来年前半に原油価格が100ドルに到達するとの見通しを示した。原油の先高感は一時的に根強い。

また、来週は27日のBOC会合にも注目。9月のカナダ新規雇用者数は市場予想を大きく上回る15.71万人増と4カ月連続で増加し、今週発表の9月消費者物価指数（CPI）は前年比+4.4%と約18年ぶりの大きな伸びとなった。9月のBOC会合では政策金利を過去最低の0.25%に据え置き、毎週の国債買い入れ額を20億加ドルに維持すると決定したが、来週の会合では国債買い入れ額を一段と縮小するとの見通しが高まっている。BOCの「22年下半年に最初の利上げを実施する計画」や「現行のインフレ高進は一過性」との見方に変化が見られるか、声明文にも注目したい。

10月18日週の回顧

今週もドル円主導で円安の流れが継続。ポンド円は2016年6月以来の高値となる158円前半まで強含み、加ドル円は2015年11月以来の93円台乗せを果たした。BOEの年内利上げ期待が強まったことを背景に、ポンドドルは約1カ月ぶりの高値水準となる1.38ドル前半に上昇し下値の堅い動き。英9月CPIは前年比+3.1%とやや市場予想を下回る結果となった。原油高を支えに、ドル／加ドルは6月下旬以来の加ドル高水準となる1.22加ドル後半まで加ドル高が進んだ。（了）